

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 6 年 5 月 15 日

事業所名 放課後等デイサービス まめの木

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		勉強をする場合、ロールカーテンで仕切り、集中できるようにしています。	
	2 職員の配置数は適切である	○		指定の基準より多くなるように配置しています。	指定基準の10人に2人の配置より2人ほど多く配置し、より安心、安全に過ごしてもらえよう心がけます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		玄関の段差はなく、入りやすい設定になっている他、洗面などの高さも子どもに合わせた設定になっています。	成長過程にある子どもたちです。配慮は大切ですが、必要以上に配慮しすぎるのではないよう気をつけながら支援していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の掃除に加え、毎日除菌を徹底しています。	子どもたちに読んでほしい本が多すぎて本棚がとりづらくなっています。順番に出すなど工夫していきます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員全員で個別支援計画、モニタリング、保護者面談など共有し、目標設定を考えています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		この年に一度の評価表で、保護者のご意見を真摯に受け止めています。	ご意見をいただいた際には職員と早急に対応策を考えます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPIにて保護者に公開していきます。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価を行っていません。今後、考えます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月1回必ず社内研修をしています。また社外研修も受けに行っています。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者と面談を行い、それを基に職員間で話し合い児童発達支援計画を作成しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者にこちらで用意したアセスメントシートに記入していただき、状況を確認しています。また発達検査などの検査結果も提出していただいています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援計画には「発達支援」だけでなく「家族支援」「地域支援」も必要に応じて設定し、計画に基づいて支援するよう心がけています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		児童発達支援計画に沿って支援内容を考えています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎日のミーティングでその日に来る子どもに応じてプログラム、支援内容を考えている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節の行事制作、避難訓練の週は同じ内容になりますが、それ以外は毎日変えています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		子ども1人1人の状況に合わせて支援計画を作成するために面談、アセスメントなどを徹底しています。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日、ミーティングをして、欠勤の職員にも伝わるように毎日の議事録を残しています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後はその日にあったことを話し合い必要なことは次の日のミーティングで共有しています。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日のミーティングの議事録、業務日誌、研修時の議事録などをすべて残しています。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に1回のモニタリング、支援計画の見直しをしています。	左記に加え、毎月の経過報告書も記録することになりました。	
関係機関や保護	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議が開催される場合、児発管が参画し、それを自社研修時、ミーティング時に職員に伝えていきます。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		相談事業所の相談員さん、園の先生など必要に応じて連携をとっています。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象の子どもはいません。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象の子どもはいません。	

保護者との連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて園の先生と連絡を取ったり、担当者会議の開催を促したりしています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて学校の先生に連絡を取ったり、サポートブックを保護者と一緒に作ったりして情報の共有に努めています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		吹田市の研修だけでなく他市の研修にも積極的に参加し、専門の先生の考え、支援方法を学びながら日々療育に生かすように努めています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			放課後等デイサービスはほとんどの子どもが園が終わってからくるので、その時には園も終わる時間です。そのため、園に行くことは難しいので、公園で会う子どもたちと一緒に遊ぶなど工夫していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等積極的に参加している	○		吹田市の連絡会などすべてに参加しています。	今年度は自立支援協議会に参加していません。来年度から参加します。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳のやり取りの他、何か新たに課題が生じた時、または保護者が困っている時はいつでも連絡しています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		年に2回の保護者会をしています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明をしています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインに基づいて支援計画を作成し、保護者から御署名、ご捺印をいただいています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて悩みをお聞きし、どのようにしたらいいか一緒に考えています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会を開催し、保護者同士でお話する機会も設けています。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者より相談や申し入れがあった場合、すぐに対応するように心がけています。職員と共有し、対応を考え、必要に応じて相談員さん、園にも連絡を入れて、連携を取りながら解決しています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		1か月に1回程度会報を発行し、子どもたちの様子を伝えています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報に関わることは鍵付きの書庫で保管し、注意して扱っています。	
非常時等の対応	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		障害の有無に関わらず、LINEや電話、会報で情報伝達したり、いつでも連絡をとったりできるようにしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			地域の方との交流を深めていきたいと考えていますが、学校ですら警備員を配置して行事にくる人を制限している時代です。しっかりと職員数を確保し、確実に子どもたちの安全が守られる状態になり次第計画します。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルは策定しています。また、地震、火災、不審者、感染症などの避難訓練週間を設定し、毎年実施しています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		地震、火災、不審者、感染症などの避難訓練週間を設定し、毎年実施しています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		その日の体調を毎度保護者から伝えてもらいます。服薬等の情報も常に確認しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者よりアレルギーの有無を聞き、職員に共有し、きちんと対応できるようにしています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットを作成し、ミーティング等で職員に共有しています。また、対応をよく話し合い、次につなげるようにしています。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を中心に研修を実施している。外部の研修にも参加して、その内容を職員全員に共有しています。		
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束委員会を設置して、身体拘束についての研修もしています。児童発達支援で身体拘束を行うと思われる子どもがいないので記載はしていません。		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。